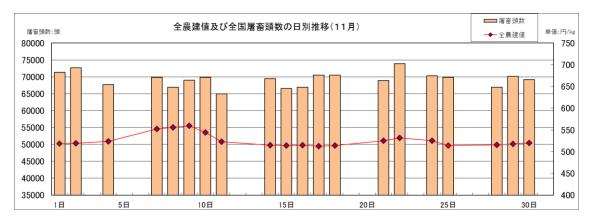
# 肉豚インフォメーション (11月)

#### 【全農建值】

2022年11月(税抜)	2021年11月(税抜)	※過去 30 年で三番目に高
526 円/kg( <b>72</b> 円高)	454 円/kg	最も高い相場は 545 円

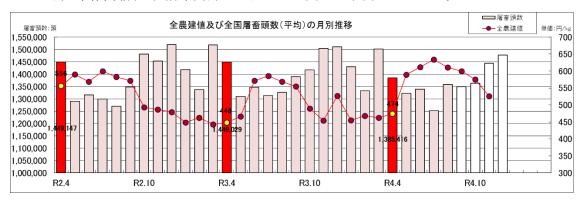
11月は、安定した出荷頭数となり相場も横ばいの展開となった。輸入相場の高止まりが国産豚肉需要の底上げ要因となっており500円を割らずに底堅い展開となった。

い相場 (2014 年)



#### 12月以降の動向

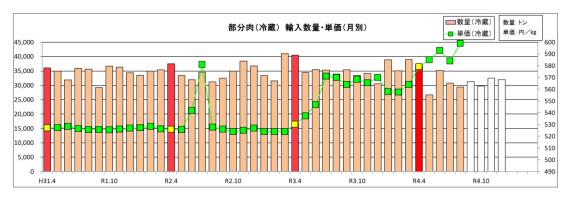
12月の出荷頭数は、前年同月をわずかに上回ると予測されている。

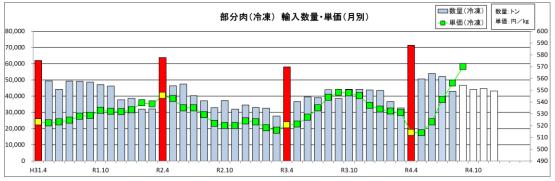


冷蔵品輸入量は、11月は、北米の現地価格の高止まり及び為替相場の変動等から、前年同月をやや下回ると予想する。12月は、11月と同程度の輸入量と見込まれるものの、前年同月のカナダからの輸入量が洪水の影響から少なかったこと等により、前年同月をやや上回ると予測する。なお、3カ月平均では、前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、11月は、スペイン産の輸入量が引き続き多いことから、前年同月を わずかに上回ると予想する。12月は、北米の現地価格の高止まりや為替相場の変動等か ら、前年同月をわずかに下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をわずかに 下回ると予測する。

(ALIC 豚肉の需給予測について 11月28日)





12月に入り全国的に本格的な冬の寒さが予想される中、鍋物需要の高まりが期待できる。一方で、既に鶏肉価格が高騰している中、全国各地で鳥インフルエンザの発生が継続して確認されていることなどから、豚価高騰時の代替需要となる鶏肉も高騰している。

また、新型コロナウイルスの感染者状況は増加傾向となっており、感染拡大の第8波が懸念される中、引続き家庭内消費の需要が見込めそうだ。

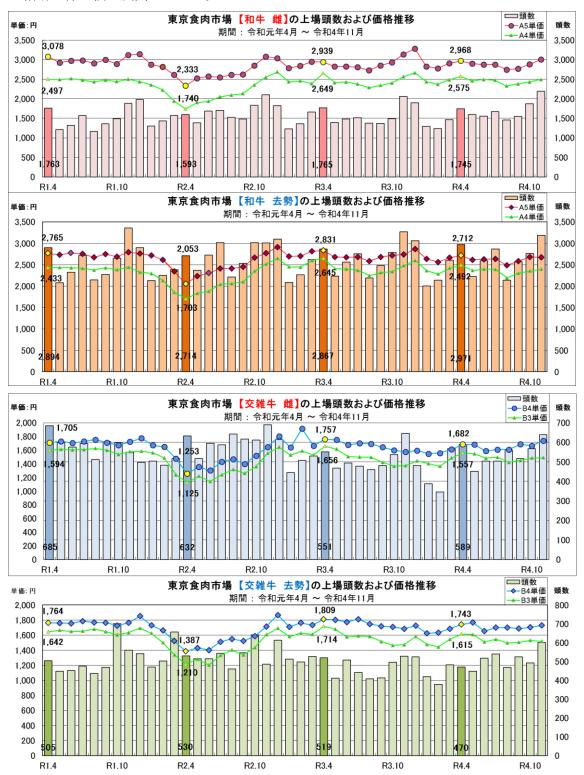
#### 12月の相場は堅調に推移する見通し。

全農建値(税抜)予測レンジは520円~600円とする。

# 肉牛インフォメーション(11月)

### ●11月の動向

11月は10月のもちあいとなった。和牛は雌の上物が堅調に動くなど相場を維持した。 一方、交雑牛は歩留りの良い牛は引き合いが強かったものの、全国的に頭数が多いこともあ り相場は伸び悩む展開となった。



3/6

### ●12月の動向予測

卸関係はすでにある程度の在庫を抱えており、肉質、歩留りなどが良いものは値が上がるが、それ以外は値が上がりづらい傾向が続いている。和牛は1~2周目をピークに、中旬を過ぎると相場が下がってくると予想。交雑牛は中旬まで相場を維持すると見込む。

#### 12月相場は「強もちあい」の展開と予想。

和牛去勢 A5 等級 2,700 円 (税込み)

A4 等級 2,500 円 (税込み)

交雑去勢 B4 等級 1,750 円 (税込み)

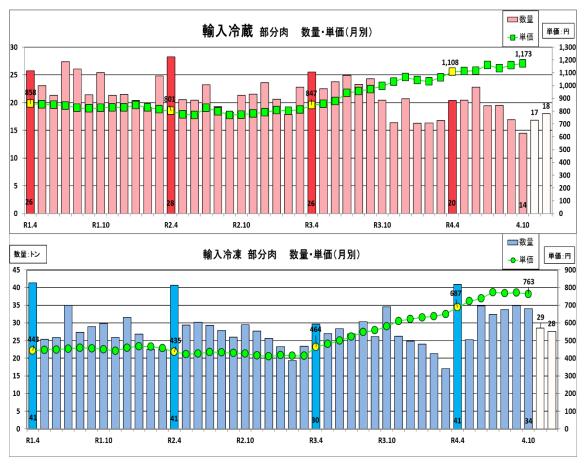
B3 等級 1,600 円(税込み)

#### ●輸入牛肉

冷蔵品は、11月は前年同月の米国産の輸入量が現地価格の高止まり等により全体的に 少なかったことから、前年同月をわずかに上回ると予測する。12月も11月同様に、現地 価格の高止まり等から例年より少なく、また、今年は為替の影響等も加わり、米国産や豪州 産等の主要国を中心とした一層の減少が見込まれることから、前年同月をかなり大きく下 回ると予測する。なお、3カ月平均では、前年同期をかなり大きく下回ると予測する。

冷凍品は、前年同月の米国産、豪州産等の主要国からの輸入量が現地価格の高止まり等から少なかったことや冷蔵品からの代替需要もあり、11月、12月ともに前年同月をかなりの程度上回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をやや上回ると予測する。

(ALIC牛肉の需給予測について11月28日)



**4** / **6** J A全農いばらき 畜産部

#### ●消費動向

11月は、家族層向け焼き肉店などの外食需要が高まったものの、スソ物中心の動きとなった。12月は、1月25日まで実施されるGo To イートに年末年始の消費拡大を期待したい。この時期の鍋物需要が強まればスライス需要も増えてくる。

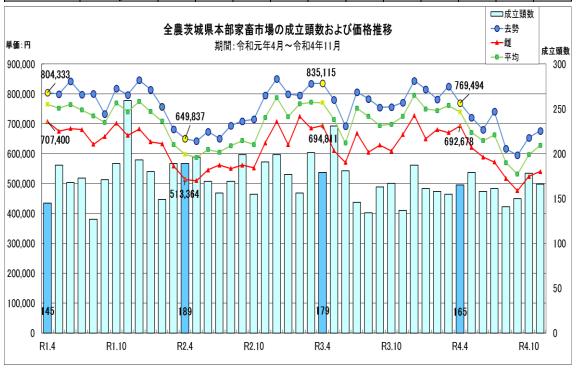
#### ●全農茨城県本部家畜市場動向

素牛平均価格(1 1月税込)は、黒毛和種の雌は 540,603 円で前月比+16,669 円、去勢は 676,428 円で前月比+22,761 円となった。上場頭数(成立)は 166 頭で前月比▲12 頭。 次回上場頭数は 200 頭を予定している。

全農茨城県本部家畜市場実績(和牛子牛)

(税込)

		年間平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年度	平均単価	673,129	597,847	587,552	614,164	605,310	626,590	643,417	630,988	721,612	787,489	723,844	766,531	772,200
	去勢	734,165	649,837	642,142	674,214	650,911	694,492	709,130	714,912	794,798	850,944	799,476	794,563	834,562
	雌	598,275	513,364	510,047	545,753	561,990	550,285	562,199	552,310	635,950	707,450	630,022	724,591	685,339
3年度	平均単価	730,497	770,842	714,424	635,683	752,483	724,531	694,491	698,157	724,764	795,341	749,776	744,087	761,385
	去勢	787,183	835,115	780,016	692,025	806,078	783,500	754,794	756,500	771,029	844,433	815,667	781,744	825,290
	雌	648,362	694,811	609,771	570,768	668,800	605,318	628,777	608,940	663,598	728,228	649,911	680,900	670,519
4年度	平均単価	630,299	739,233	671,234	643,591	662,357	569,995	531,740	596,089	628,153				
	去勢	681,760	769,494	721,233	680,689	741,157	616,499	594,914	653,667	676,428				
	雌	566,548	692,678	620,672	589,102	572,000	517,150	476,244	523,934	540,603				
2年度	成立頭数	178	189	196	169	156	169	199	155	191	199	177	156	201
3年度	成立頭数	167	179	231	181	146	134	163	167	137	187	161	158	155
4年度	成立頭数	162	165	179	158	161	141	150	178	166				



# 食肉インフォメーション(11月)

日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査 10 月度結果報告によると、全国旅行支援や水際対策の大幅緩和による客足増や、価格改定による客単価増が影響し、全体売上は前年比 114.8%、コロナ前の 2019 年比でも 105.5%となった。しかし夜間の客足鈍化や人手不足は変わらず、課題となっている。

量販店については、日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3 団体の 10 月の販売統計速報によると畜産部門の売上高は 1,206 億円(前年同月比 104.9%、既存店ベース 103.3%) で、牛肉は国産・輸入ともに鈍いが、豚肉や鶏肉は鍋物用の動きが良く、やや好調だった。しかし相場高騰で買上点数が伸び悩み、さらに販売原価の高騰で利益が圧迫される状況が続いた。

11月は下旬から年末年始に向けた動きが出始めるが、それ以前は需要の閑散期になる傾向が強い。全国旅行支援による観光需要への期待があるが、食品値上げが続く中でどこまで回復が見込めるかが焦点となる。

#### ○牛肉

10月は、国産では観光需要の回復により、これまで不調だったヒレやロースの動きが徐々に出始めた。スネなどの煮込み用も気温低下に伴い動きが増えたが、切落し用のモモなどは鈍かった。輸入牛は価格の高止まりが続いて卸売業者の調達意欲も低下しており、目立った動きは見られなかった。

#### ○豚肉

10月は、国産では気温低下に伴い、鍋物用のバラを中心にしたスライス系が活発な荷動きとなった。輸入物の冷蔵での供給不安から代替需要が増した一方で、出荷頭数の伸び悩みから一時需給がひっ迫した。輸入では、冷蔵は円安と現地相場高騰により、目立った荷動きは見られなかった。一方冷凍品は、外食需要回復や量販店での解凍品の取扱増加が重なり、需要が増加傾向となった。

#### ○業態別概況

表:全農いばらき食肉センター 業態別取引先実績(令和4年10月期) 単位:千円、%

年度	J A	どきどき	給食	仲卸 食肉		量販店	飲食店	合計
					専門店			
令和 2 年 10 月	13,780	15,213	12,504	44,679	12,387	12,741	6,270	117,574
令和3年10月	12,385	12,961	8,570	32,025	15,597	9,908	6,760	98,206
令和 4 年 10 月	12,594	14,360	10,368	30,438	19,228	13,277	7,481	107,746
増減(R4-R3)	209	1,399	1,798	-1,587	3,631	3,369	721	9,540
対比(R2/R4)	91%	94%	83%	68%	155%	104%	119%	92%
対比(R3/R4)	102%	111%	121%	95%	123%	134%	111%	110%